

学校評価

2023 年度

自己評価報告書
学校関係者評価報告書

2024 年 3 月 27 日

学校法人東京観光専門学校

目 次

1.学校の理念、教育目標	1
2.評価項目別取り組み状況	2
(1)教育理念・目的	2
(2)学校運営	3
(3)教育活動	4
(4)学修成果	6
(5)学生支援	7
(6)教育環境	8
(7)生徒募集	9
(8)財務	10
(9)法令の遵守	11
(10)社会貢献・地域貢献	12
(11)国際交流	13

1 学校の理念、教育目標

教育理念	教育目標
<p>実社会に通用する =仕事に就き、業界に輝く『人財』の育成</p>	<ol style="list-style-type: none">1. ビジネスマナーの徹底教育2. インプットしたことをアウトプットし、アウトカム(教育効果・成果)を上げるカリキュラムの実施3. 産学共同、イベントの推進・拡大

2 評価項目別取り組み状況

(1) 教育理念・目的

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4	教育理念、教育目的、人材育成は学校教育の重要な柱であり、学生ハンドブック、教員マニュアル、さらに入学式、オリエンテーション、研修会等、様々な機会を通じ、学生、教職員、保護者に対し、周知を図っている。2023年4月より21世紀アカデミアとして、学園全体で実社会で活躍する人材育成を目指した新たなカリキュラム作りに取り組んでいる。また2014年度より各学科にて教育課程編成委員会を開催しており、業界の意向を踏まえたシラバスの策定ならびに産学共同に取り組むことで、各業界のニーズに合わせた人材育成を図っている。	社会の課題に向き合い、実社会で活躍するために必要な5つの力や技法が21世紀アカデミアとして定められ明確となった。今後は、育成のためにどのようにカリキュラムに反映し、身につけていくのかが課題。	アカデミアのカリキュラムについては、学校長から冒頭に説明があり評価をいただいた。	
□社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4				
□理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが、学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	4		21世紀アカデミアとしての新しい理念や特色は、学生においては様々な場面で触れる機会を作り、周知をはかっているが、関係業界や保護者等への周知は途上である。	新体制の外部への周知状況についての質問。ニュースリリースや書面での通知はしている点は評価できるが、途上。	
□学科の教育目標、育成人材は、学科に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4		上記第一、第二項目に同じ。	特になし	

評価項目は、文科省の基準をベースに学校単位で定めるものです。上記「評定」は自己評価によるもので、内容は以下のとおりです。

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取り組みが必要である。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
- 1 まったく対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

(2) 学校運営

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	21世紀アカデミアとしての目的に沿った運営方針を策定している。学園や学校の目的を達成するために、各組織・チーム・教職員の役割を定め組織運営方針を策定をしている。	アカデミアとして、今まで以上に全国の系統校4校や東京姉妹校5校との合同イベントや案件があり、各校間での協議や調整が必要となる。	合同イベントについての質問があり、東京グループ校での取り組みであるクロスオーバーサミットやクロスオーバーフライデーの説明を行い評価いただいた。	
□運営方針に沿った事業計画策定がされているか	4	事業計画については、学校内だけではなく学園本部・全国系統校・東京姉妹校などと協議し策定している。			
□教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	教育活動に関する情報公開については、職業実践専門課程の申請に伴い、平成27年度よりホームページに掲載し、広く一般に公開している。	教育イベントにおいて「何をやったか」に注目しがちだが、学生の成長に目を向けた情報発信が不足している。	学生へのインタビューなどを活用した情報発信の提案をいただいた。	
□情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	学生や保護者・非常勤講師との連絡網としての通信アプリに追加し、就職活動をサポートするシステムを導入し効率化を図っている。 学生の出席や成績をシステムで管理して情報のアップデートと共有ができる体制をとっている。	学生への配信を徹底するに伴い、個人情報の保護の観点からオンライン情報システム上のセキュリティの徹底をはかる必要がある。担任活動に活かせる学生の顧客管理を進める必要がある。	特になし	

(3) 教育活動

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	職業実践専門課程への取り組みとして、年2回の教育課程編成委員会でカリキュラムの検討を行っている。それぞれの立場の委員からご意見やフィードバックをいただきながら改訂を行い、教育課程の方針を策定している。	授業評価の実施および評価体制のひとつとして、学生によるアンケートは今年度も継続して実施をしたが、アンケート結果を対象となった教員に、どのようにフィードバックをして、誰が改善や指導をし、どのように行うかなど詳細まで詰めきれていない。	アンケートの内容についてのご質問をいただき、内容を説明し評価をいただいた。今年度から新しいアンケート方法に取り組んでいる点と今後のフィードバック方法などの課題についても理解・評価をいただいた。	
□教育理念、育人材や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確か	4	学習時間は4期単位表と年間スケジュールの検討・作成過程で十分考慮され、確保されている。到達目標についても、各科目シラバスで明確にしている。			
□学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	AO2.5年の教育制度として、入学前の就職サポート授業を含めた5期の観点からシラバスを策定している。	専門分野としては体系的に編成されているが、定期的な編成委員会での検証や評価委員からのさらなるアドバイスの取込みが必要。	3年制コースについての質問をいただき、現状の2.5年制度の意義を説明し、理解評価をいただいた。	
□キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	教育編成委員会でも出された意見を取り入れたカリキュラムを実施している。 各学科においては、産学連携イベントや授業を行い、そこで出た課題や反省点をカリキュラムに反映させている。	職業教育に関連するイベントや授業を、学生自らが考え行動し実施するような自主性の不足が感じられる。参加することの意義を理解し、成長が感じられるような工夫や開発が必要。	昨年度の評価委員会で議題となった資格検定対策授業の取組みなど評価をいただいた。	
□関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4				

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・演習等）が体系的に位置づけられているか	4	インターンシップ等は継続的に実施できており、実践的な学びを提供できている。そうしたなかで業務提携に至る企業もある。卒業後、3年以内に退社する社員もいることから、当校でのインターンは早期退社の防止に効果がある。	現状では特になし。	インターンシップ実施については評価をいただいたが、実施に当たりインターンシップの目的と意義を学生にしっかりと指導を、とのご意見をいただいた。	
□授業評価の実施・評価体制はあるか	4	前頁でも触れたが、学生授業アンケートを実施している。	評価内容やフィードバック方法に検討の余地あり。	アンケートの実施・内容については評価いただいた。	
□職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会を年に2回開催し、実施振り返りや今後の取り組み方など、意見ならびに評価をいただいている。	編成委員以外の外部関係者からの評価が不足しており、卒業生の活用が今後の課題。	今後の学園全体での卒業生組織作りは評価いただいた。	
□資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	業界で必要と思われる資格試験を選定し、授業で学べるよう配慮している。また、当該団体から認定校の指定をいただいている。	各学科に必要な資格対策授業はカリキュラムに反映し指導している。	特になし	
□人材育成目標に向け、授業を行う事が出来る要件を備えた教員を確保しているか	4	定期的な学校内研修等で対応している。今期は「発達障害の特性」についての研修を実施し、様々な学生への対応方を学んだ。 また、各学科専門分野の研修は、それぞれの業界の展示会や見本市などの参加や、産学連携先企業の方との勉強会などを実施している。	学生の多様化にともない、対応が難しい事例も増えてきており、関連分野の知識技能研修と学生対応向けの研修など多方面の研修が必要。	研修実施内容については評価をいただいた。	
□関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4				
□職員の能力開発のための研修等が行われているか	4				

(4) 学修成果

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□就職率の向上が図られているか	4	観光サービス業界の人材不足が求人数の増加につながり、昨年同時期よりも内定率は向上している。	学生が本当に希望した企業に内定をしたかどうかなど内定の中身を把握し、今後に活かすことが求められている。	前年と比較して求人数や就職内定の早期化について評価いただいた。	
□資格取得率の向上が図られているか	4	授業のなかで資格が学べるようシラバスを策定している。講師の選択やクラスの定員を減らした授業や教科書教材の採用をし向上を図っている。	学科により資格取得へのモチベーションに差があり、教員一体となった指導が必要。また、全体の学力の底上げが課題。	資格取得者数の低下の要因でもある学力低下に対する取り組みは評価いただいた。	
□退学率の低減が図られているか	4	今年から毎週学生状況把握のための会議を設定し、学生情報の共有や保護者への連絡、担任活動のフォローなどを行っている。	進路変更・学費・精神面など改善が困難な学生も多く、カウンセラーとの連携を図っているが、低減されていない。	現状について理解していただき、学生の気質が二極化している中での対応について評価いただいた。	
□卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	4	学務広報を中心に一部の卒業生については把握できている。アカデメイアとして、校友会組織を全国規模とし一括で管理することが決まっており、今後に向けては改善される。	入学案内や HP 等に掲載される一部の卒業生以外は、卒業後の情報が当時の担任レベルで留まっており共有できていない状況が続いている。	卒業生を対象としたイベント等を学校で開催することにより、学校との結びつきを維持ができるとの提案をいただいた。	
□卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4				

(5) 学生支援

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	担任制度を設けており、就職についても担任と就キャリアサポートセンター職員と連携して指導にあたっている。	就職希望率の向上や就職先の企業内容についての検討も引き続き必要だろう。	特になし	
□学生相談に関する体制は整備されているか	4	週3回「何でも相談室」を運営し、カウンセリングを実施している。 カウンセリング内容は、学校長へ報告し、クラス担任と共有されている。 カウンセラー直通の電話やメールを設定し、利用のハードルを下げている。	ポスター掲示やカードの配布などで周知を徹底しているが、一部の学生のリピート利用が多い。誰でも小さいことでも気軽に相談しやすい環境づくりが必要。	認知度の向上や環境づくりに対して評価いただいた。	
□学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学内の制度としては、日本人には特待生制度を設け、留学生に対しては学費の減免を行っている。	学生の現状に合わせたきめ細かな運営方法が必要かと思われる。奨学金や無償化など、教職員の知識向上が必要。	様々な支援策がある中で教員への教育・知識向上が必要という認識は評価いただいた。	
□学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	健康診断は基準通り実施している。体力増進の一環から、昨年度は、スポーツ大会を実施し、学生からも好評だった。	保健室はあるが、現状では設備的に不十分かと思われる。 メンタルの不調から欠席へつながるケースも多く、メンタルケアへの施策が課題。	学生に向けたスポーツイベントなどへの取組みに評価をいただき、今年度も継続予定。	

□学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	提携マンション、提携寮を斡旋している。留学生には学園で所有している女子寮も活用。	現状で十分とは思われないが、学生の好みも多様化しているため、要検討課題。		
□保護者と適切に対応しているか	4	保護者には期ごとに成績表などを配布し、学生の現状を連絡している。また、出席不良の学生については、個別に保護者への連絡を行い、必要であれば三者面談を実施している。	保護者も様々で、学生への無関心、あるいは全ての責任を学校に求めてくるなど、昨今では対応に苦慮する場合あり。		

(6) 教育環境

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	学内環境改善や教育効果向上のため、計画・予算化し適宜、施設や実習設備の改修を実施している。トイレや空調、照明など設備面での学内生活の環境改善も適宜行っている。	教育課程編成委員会などの意見を参考に、各学科の実習設備をなるべく実勢に合わせたものに維持していく。少人数授業に対応できる教室数の確保が課題。	出欠確認など効率化されていない部分があり、環境整備とシステムかへの指摘をいただいた。	
□学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	実習設備については上記のとおり。海外研修は未実施だが、韓国留学は短期と長期留学を実施中。英語はオンライン授業とアプリの活用を実施。インターンについては、各学科とも実施済み。	留学については、今後アメリカと中国もあわせて実施する予定。 各学科のインターンも、学生の状況に応じた対応が今後必要。	特になし	
□防災に対する体制は整備されているか	4	校舎の耐震工事は済み、緊急時の食料と水を人数分備蓄している。防災訓練も実施している。	特になし	緊急時の水・食料・簡易トイレの備蓄等、学校の取組みに評価いただいた。	

(7) 生徒募集

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	接続する教育機関に対する情報提供は重要であり、学校説明会やガイダンス等を通じて行っている。	進路指導担当教員に向けた継続的な情報提供は対面中心なので、それ以外の方法も模索していく必要がある。	アカデメイアとなって新たに取り組む、海外プログラムやグループ校との取組みを発信し、生徒募集にもっと活用すべきとの指摘をいただいた。	
□生徒募集活動は、適正に行われているか	4	学生募集には全教職員が参画意識をもって取り組んでおり、学生募集目標を設定し、達成することは学校運営上特に重要である。	21世紀アカデメイアになった学習効果や教育プログラムの価値を募集活動に活用しきれていない。		
□生徒募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	在校生の資格取得や就職情報については、学生の承諾を得て実名や出身校を掲載し、正確な情報開示に努めている。	インターネット上の掲載情報においては、個人情報が簡単に特定されないような配慮が必要である。		
□入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4	筆記試験ではなく内申書の確認で合否を決定している。 AO入学では面接選考を行い観光サービス業への意欲のある学生の取り込みを図っている。	特になし		

(8) 財務

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	学校関係者評価	参照資料
<input type="checkbox"/> 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4	入学者の安定確保が財務基盤の安定には不可欠であり、全職員で同じ意識を持って取り組んでいる。	特になし	特になし	
<input type="checkbox"/> 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	収支予算の予測、支出状況の把握につとめ、バランスのとれた収支状況の実現に努力している。			
<input type="checkbox"/> 財務について会計監査が適正に行われているか	4	行われている。			
<input type="checkbox"/> 財務情報公開の体制整備はできているか	4	ホームページ上に掲載している。			

(9) 法令の遵守

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	学校関係者評価	参照資料
<input type="checkbox"/> 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。 また、コンプライアンス委員会を学園本部に立ち上げ、適切な運営を継続している。	特になし。	特になし	
<input type="checkbox"/> 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	情報管理については、教職員及び学生の個人情報の取り扱いには最新の注意を払い、適正に管理を行っている。			
<input type="checkbox"/> 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	努めている。			
<input type="checkbox"/> 自己評価結果を公開しているか	4	ホームページ上に公開済み。			

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	学校関係者評価	参照資料
□学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	3	特に行っていない。	地域に対する公開講座や教育訓練については、地域にとって必要かどうかも含め、今後の課題として取り組んでいきたい。	地元の高校生向けに出張授業を行った他校の情報をいただき、社会・地域貢献に対する提案をいただいた。	
□学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	東京都障害者スポーツ協会や福祉協会と連携し、大会や総会会場での案内誘導などを学科として取り組んでいる。該当年度では、視覚障害者の大会や東京マラソンスタッフを支援した。	ボランティアの案内が、個別の学科に偏っており全校学生を対象とした取組みが不足。	参加人数は少ないが、各イベントへの取組みは評価いただいた。	
□地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	3	特に行っていない。	要検討	特になし	

(11) 国際交流

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	学校関係者評価	参照資料
□留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって国際交流を行っているか	4	コロナの状況改善とともに留学は安定傾向にあり、受入れ・派遣共に戦略をもってスケジュールを組み立てている。在校生においては次年度、外国語コミュニケーション学科が韓国語学科とグローバル語学学科に分かれ、新体制となる。韓国留学は順調に実施されており基盤ができてきているが、英語・中国留学においても基盤を作るべくカリキュラム作成をしている。	派遣においては韓国留学の安定、英語、中国語留学の促進が課題である。受入れはコロナ前までの回復が課題である。	留学生受け入れ体制や現状について説明し、評価をいただいた。	
□受け入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4				
□学習効果が国内外で評価される取組を行っているか	3	国内外で活躍する卒業生の情報を入学案内や HP、留学生サイト等で紹介している。在校生の活躍においても随時、HP 等で発信している。	国内外で働く卒業生とのネットワークを構築し、幅広く活躍する卒業生情報を蓄積し発信する体制が必要。		
□学内での適切な体制が整備されているか	4	授業や学内イベント、サークル活動等を日本人、留学生の区別なく運営しており、日常的に交流ができてきている。	特になし		